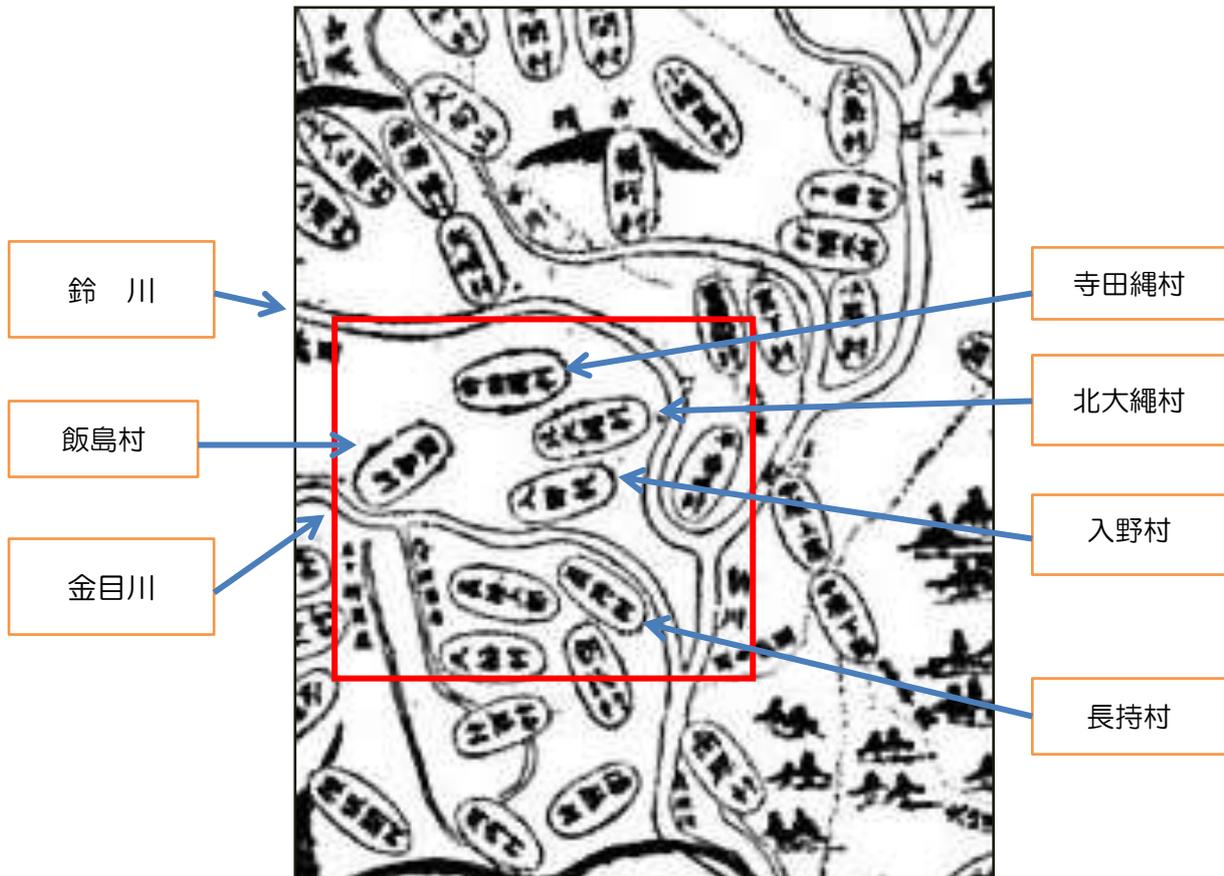


私たちの住む寺田縄地域は、明治時代になり行政区画として金田村となり、その後、1956（昭和31）年に平塚市と合併し金田村としての村政は終わりました。

金田地区の江戸時代は、相州大住郡に属し飯島、寺田縄、入野、長持（含む入部）の4ヶ村で構成されていました。（入部を1ヶ村とする説もありますが、「新編相模国風土記稿」には、無住の地として「長持入部」と記されています）。当時の村落の規模は、前出の風土記稿内に、編纂当時の天保初期（1830年代）の戸数が記されています。それによると、飯島村は15戸、寺田縄村は53戸、入野村は56戸、長持村は26戸とあります。合計では150戸、人口の記載はありません。

天保12年（1841）頃

「新編相模国風土記稿」より



金田地区の絵図です。
村落は名称が記されていますが、位置関係は大まかです。例えば「北大縄村」は寺田縄と入れ替わらねばなりません。また、長持村が金目川の右岸のみとなっています。

1889（明治22）年4月「市及び町村制」が施行され4ヶ村は合併し、江戸時代に領主が支配する村落であった村々は、「金田村」として統合されました。

「市及び町村制」発布について、天皇の詔には

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十一年四月十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤 博文

内務大臣伯爵 山縣 有朋

とあります。

「金田」という名称の起こりは、この地域が稲作農（水田耕作）を生業とした農村地帯、秋になり、辺り一面の田んぼに黄金色の稲穂が広がる様子に因んだといわれています。

戦後、日本国憲法のもと、地方自治法が制定され、市町村は教育、社会福祉、公衆衛生、警察、消防等などの行政を独立して運営することになりました。諸行政サービスを実現するための財政力を強化することを目的として、1952（昭和28）年10月に「町村合併促進法」が施行され、全国にわたる町村の合併が図られました。金田地区は、1956（昭和31）年9月、平塚市に合併し、飯島、寺田縄、入野、長持（含む入部）で構成されていた中郡金田村は平塚市に組み込まれ、金田村の村政は終わりました。

初期金田村の村政は、「市及び町村制」により、選挙によって選出された村長、助役、村議会議員が司ることになりました。

当時の選挙権は、満二十五歳以上の男子・地租の納入もしくは直接国税年額二円以上の納税者とされていました。

村長、助役に立候補できる被選挙権は満三十歳以上の選挙権を持つ者と規定され、村議会議員については、前記の選挙権を持つ者とされていました。

金田村には村長、助役、村会議員が選出され、村の行政が進められました。
 明治期から戦後の昭和31年までの金田村の歴代村長名とその略歴を紹介します。

金田村歴代村長一覧

平塚市史資料（礎柱録） 昭和47.4 市教委市史編纂係

代	村長氏名	地区	在任期間 (和暦)	(西暦)
1	吉川長五郎	寺田縄	明 22.05~26.05	1889~1893
2			26.05~30.05	1893~1897
3			30.06~32.02	1897~1899
4			32.02~34.05	1899~1901
5			34.05~38.06	1901~1905
6			38.07~39.06	1905~1906
7	小泉彌太郎	寺田縄	39.07~43.07	1906~1910
8			43.08~大2.02	1910~1913
9	田中敦太郎	長持	大 02.02~03.03	1913~1914
10	今井朝吉	入野	03.04~07.04	1914~1918
11	小泉彌太郎	寺田縄	07.06~10.12	1918~1921
12	田中 八郎	長持	10.12~12.07	1921~1923
13			12.09~13.03	1923~1924
14	吉川勝次郎	寺田縄	14.01~15.02	1925~1926
15	高橋村太郎	寺田縄	15.11~昭5.11	1926~1930
16			昭 05.11~09.11	1930~1934
17			09.11~13.11	1934~1938
18			13.11~17.05	1938~1942
19	田中 八郎	長持	17.06~21.06	1942~1946
20			21.06~22.12	1946~1947
21	中島 俊雄	寺田縄	22.04~26.04	1947~1951
22			26.04~30.07	1951~1955
23			30.08~31.09	1955~1956

金田村歴代村長名・略歴

(昭和47年4月1日 礎柱録より)

吉川長五郎 (寺田縄)

吉川長五郎・長男

生：天保12(1841)12.8

没：明治39(1906)6.8 <村長職務中死去>

寺田縄村名主役の長男、名主役、寺田縄村他里長・戸長

県会議員1期(明治17~19)、明治19(1886)洪水氾濫の救済・復旧に尽力

金目川通北金目村十七ヶ村水利士功会議員

村政に尽くすや一生を捧げ、徳望いまだ古老の伝えるところである

小泉彌太郎 (寺田縄)

小泉弥右衛門・長男

生：明治元(1868)11.22

没：昭和7(1932)11.5

金田小学校で教鞭、金田村書記・助役、退職後・金田村産業組合長、農業会長

金田村耕地整理組合長、寺田縄耕地整理組合長、中郡議会議員

田中敦太郎 (長持)

田中覚左・長男

生：弘化3(1846)3.26

没：昭和2(1927)7.30

金田村助役・学務委員、農村振興に力を注ぎ、金目川堤に桜の植栽・育成に尽力

今井 朝吉 (入野)

今井又平・長男

生：明治8(1875)5.23

没：昭和30(1955)12.11

金田村書記・収入役・助役、財政の健全化に尽くし農産にも努力

退任後郡会議員、養蚕実行組合長、金田村農業会副会長

田中 八郎 (長持)

田中房吉・長男

生：明治23（1890）2. 8

没：昭和37（1962）1. 7

県議会議員3期（大正13～昭和11）

金田村収入役、学務委員、関東大震災の復旧・振興に尽力
戦時下の非常時体制の中、村内を統制した

吉川勝次郎 (寺田縄)

富塚要輔・次男（平等寺村） 養父・吉川長五郎

生：万延元（1860）3. 14

没：昭和8（1933）11. 22

金田小学校教員、三越呉服店大阪支店次席

金田村振興のために尽力する、退任後果樹園の経営

高橋村太郎 (寺田縄)

高橋又平次・長男

生：明治9（1876）10. 3

没：昭和17（1942）5. 6

日露戦争・勲8等、大正4（1915）養蚕組合結成、金田村助役

関東大震災・村長補佐、金田村経済更正・農産物の生産向上に努力

16代村長時・金田村耕地整理組合長・耕地整理の完成、

18代村長時・金田小校・校舎建設に貢献

中島 俊雄 (寺田縄)

中島亀太郎・長男

生：明治41（1908）1. 22

没：昭和61（1986）3. 10

金田村書記・助役、金田村農協組合長（2期）

県農業協同組合購買連合会理事、金田村農地委員会委員長、

金目川沿岸土地改良区理事長